

令和8年度(2026年度)事業計画

令和8年度 定時社員総会
令和8年5月28日

1. 2025年度 国籍別の訪日旅行人数及び旅行消費額とその傾向
2. 2025年度 徳島県の延べ宿泊者数と訪日の国別割合
3. 2026年度（令和8年度）イーストとくしま観光推進機構の事業

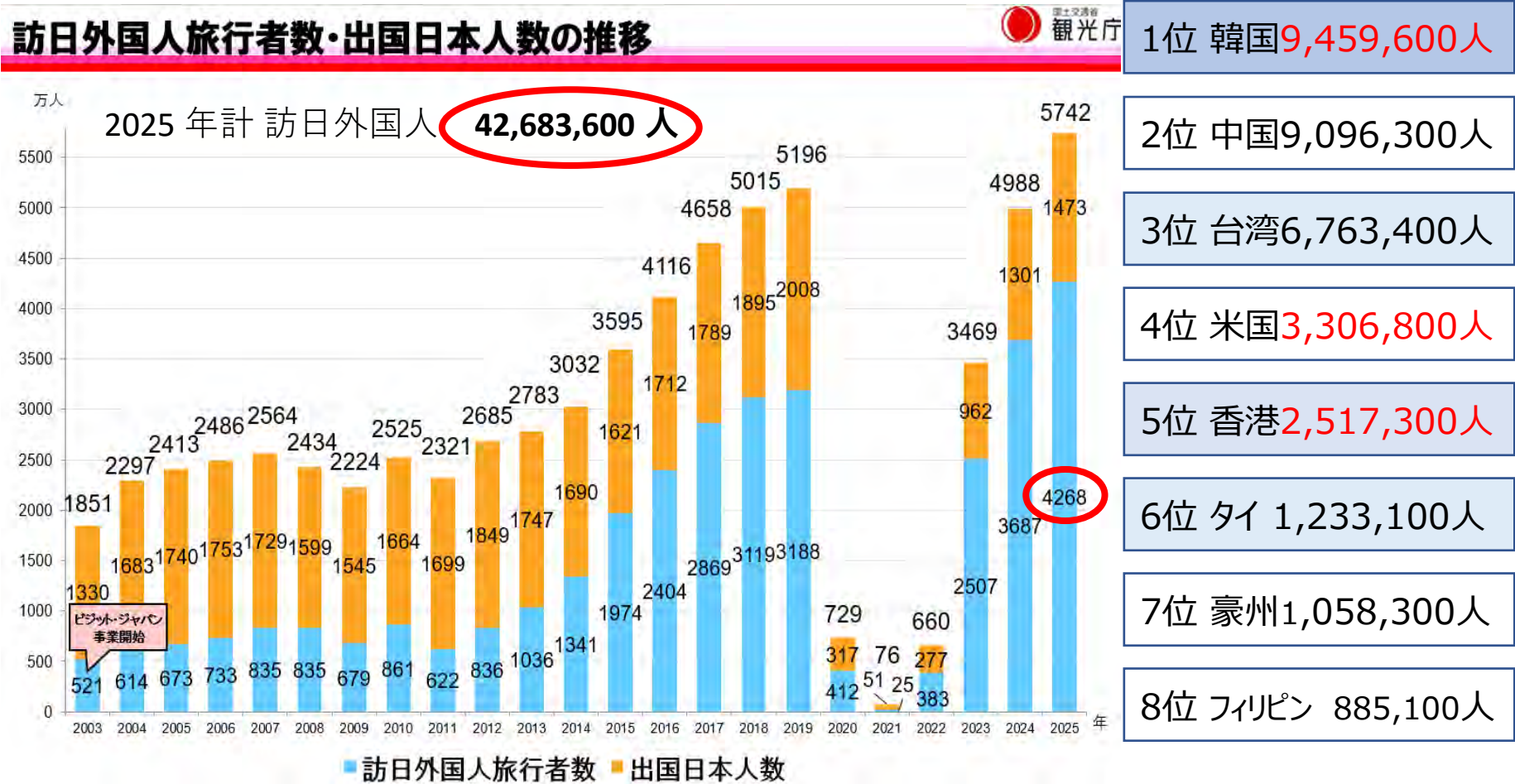


1.-2025年度 国籍別の訪日旅行人数及び旅行消費額とその傾向



1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

(1) 2025年 インバウンド旅行の国籍別の訪日人数



出典：日本政府観光局(JNTO)訪日外客統計、出入国在留管理庁 出入国管理統計

(観光庁資料よりイーストとくしま作成)



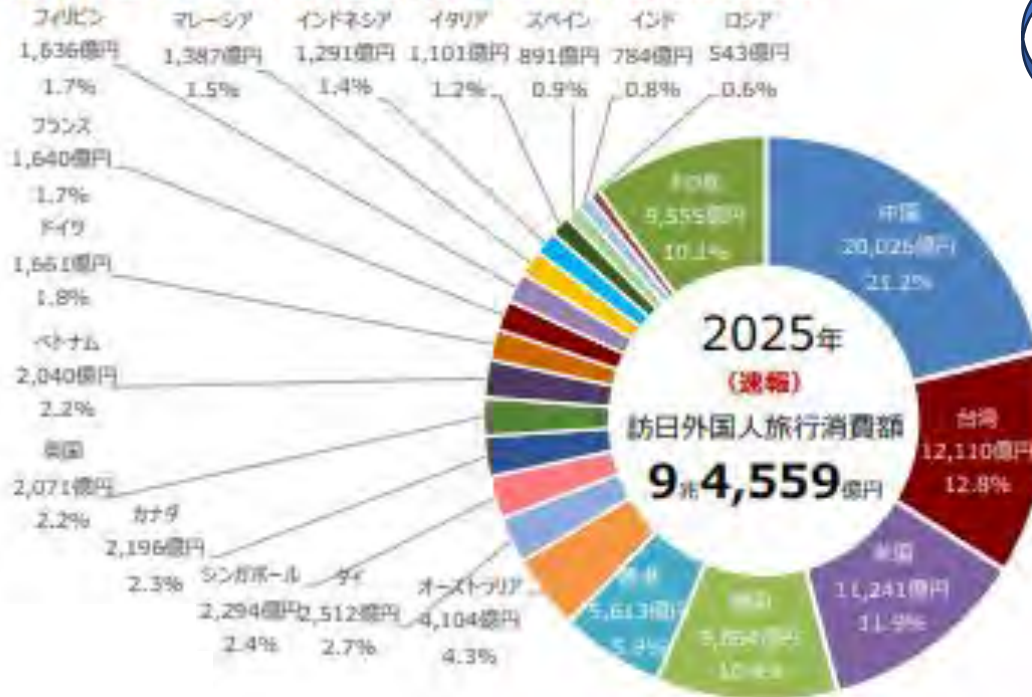
1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

(2) 2025年インバウンド旅行の国籍別の旅行消費額（旅行支出）

1. 国籍・地域別にみる訪日外国人旅行消費額【図表1】

- 2025年の訪日外国人旅行消費額（速報）は2024年比16.4%増の9兆4,559億円と推計される。
- 国籍・地域別では、**中国20,026億円（構成比21.2%）**、**台湾12,110億円（同12.8%）**、**米国11,241億円（同11.9%）**、**韓国9,864億円（同10.4%）**、**香港5,613億円（同5.9%）**の順で多く、これら上位5カ国・地域で全体の62.2%を占める。

【図表1】 国籍・地域別にみる訪日外国人旅行消費額と構成比



- 1位 中国20,026 億円
- 2位 台湾12,110 億円
- 3位 米国11,241 億円
- 4位 韓国 9,864 億円
- 5位 香港 5,613 億円
- 6位 豪州 4,104 億円
- 7位 タイ 2,512 億円
- 8位シンガポール2,294億円

(観光庁資料よりイーストとくしま作成)



1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

(3) 2025年国籍別の一人当たりの費目別旅行支出

【図表6】 国籍・地域別にみる一般客1人当たり費目別旅行支出（観光・レジャー目的）

2025年暦年		(速報)		(円/人)							(泊)		A ÷ B
国籍・地域	A	総 額		訪日外国人1人当たり旅行支出【観光・レジャー目的】							平均泊数 注		1泊あたりの旅行支出
		前年比	宿泊費 C	飲食費 D	交通費	娯楽等サービス費 E	買物代 F	その他	B	前年差			
全国籍・地域	224,806	+0.6%	80,938	48,890	23,262	9,888	61,708	119	7.1	+0.3泊			
韓国	101,770	-1.9%	35,083	27,588	8,457	5,093	25,533	15	3.4	-0.1泊	29,932		
台湾	182,774	-0.7%	57,812	39,148	17,899	7,490	60,257	169	5.6	+0.2泊	32,638		
香港	227,143	-7.5%	74,976	54,353	20,430	7,254	70,117	12	6.0	-0.2泊	37,857		
中国	236,847	-11.9%	69,230	49,127	19,690	8,038	90,735	27	6.4	-0.2泊	37,007		
タイ	203,744	+0.7%	63,628	44,069	20,897	6,764	68,386	0	5.8	-0.2泊	35,128		
シンガポール	323,724	+11.1%	117,996	64,951	31,753	9,125	99,895	5	9.0	+0.6泊	35,969		
マレーシア	234,615	+6.6%	76,870	49,854	26,705	9,978	71,146	63	7.7	+0.1泊	30,469		
英国	411,357	+4.0%	203,381	84,728	52,389	16,880	53,979	0	12.8	+0.3泊	32,137		
ドイツ	418,214	+14.3%	191,290	83,505	58,971	17,684	66,733	31	15.3	-0.2泊	27,344		
フランス	371,778	+0.5%	161,531	75,595	52,002	14,731	67,918	0	16.5	+1.4泊	22,532		
イタリア	351,973	-5.5%	144,118	85,304	56,691	15,862	49,596	403	13.4	+0.4泊	26,266		
スペイン	372,734	+2.1%	159,440	86,203	52,082	13,660	61,307	42	13.1	-0.5泊	28,452		
ロシア	305,146	-0.4%	131,205	62,310	30,090	10,698	70,843	0	10.7	-0.2泊	28,518		
米国	352,058	+0.9%	152,190	70,170	42,079	15,743	71,801	75	10.8	+0.2泊	32,597		
カナダ	328,408	-1.9%	134,458	72,816	44,162	20,765	56,162	46	12.5	+0.1泊	26,272		
オーストラリア	406,845	+1.9%	166,204	87,827	44,763	37,484	70,487	80	13.3	-0.4泊	30,590		
その他	404,893	+8.6%	169,707	84,786	49,963	21,164	78,131	1,142	15.2	+1.3泊	朱書線は注目値		

※注 サービス費（娯楽等サービス費）は、滞在中の入場、体験（コンテンツ）などに使った金額

↑
この列（縦）を加筆

国別特徴として、前年比（伸び）、宿泊費、サービス費、買物代、平均泊数に注目！

（観光庁資料よりイーストとくしま作成）

1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

(4) 2025年国籍別一人当たりの費目別の旅行支出一覧から見える特徴

国籍別特徴：前年比、宿泊費、サービス費、買い物代、平均泊博数に注目！

〈1〉一人当たりの旅行消費額：**シンガポール、ドイツ**は、対前年11%以上の高い伸び

〈2〉娯楽などサービス費：**オーストラリア**が突出。旅ナカ消費が最大！特別体験等訴求

〈3〉買い物代：**シンガポール、中国**が突出。地域での消費額拡大のチャンス

〈4〉平均泊数：**フランス**が高い伸び。日本での滞在日数が拡大。1泊誘致の可能性有り

〈5〉宿泊費：**英国**は欧州諸国との比較の中で、**宿泊費**にかける割合が大（**こだわり**）

（観光庁資料よりイーストとくしま作成）

1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

(5) -1 1泊当たりの旅行支出と1泊当たりの宿泊費の検証

1泊当たりの旅行支出は、P3の $\boxed{A} \div \boxed{B}$ 、1泊当たりの宿泊費は $\boxed{C} \div \boxed{B}$ で算出

	1泊当たり の旅行支出	1泊当たり の宿泊費
韓国	29,932	10,319
台湾	32,638	10,324
香港	37,857	12,496
中国	37,007	10,817
タイ	35,128	10,970
シンガポール	35,969	13,110
マレーシア	30,469	9,983
英国	32,137	15,889
ドイツ	27,344	12,503
フランス	22,532	9,790
イタリア	26,266	10,755
スペイン	28,452	12,171
ロシア	28,518	12,262
米国	32,597	14,092
カナダ	26,272	10,757
オーストラリア	30,590	12,497

1泊当たり宿泊費と旅行支出に占める割合
(アジア) ※順位は1泊当たりの宿泊費

第1位 シンガポール：13,110 円 (36.4%)

第2位 香港：12,496 円 (33.0%)

第3位 タイ：10,970 円 (31.2%)

第4位 中国：10,817 円 (29.2%)

1泊当たり宿泊費と旅行支出に占める割合
(欧米豪) ※順位は1泊当たりの宿泊費

第1位 英国：15,889円 (49.4%)

第2位 米国：14,092円 (43.2%)

第3位 ドイツ：12,503円 (45.7%)

第4位 オーストラリア：12,497円 (40.9%)

(観光庁資料よりイーストとくしま作成)



1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

(5) -2 国籍別旅行日数と1泊当たりの旅行支出、1泊当たりの**買い物代**の検証

1泊当たりの買い物代は、P3の **F** ÷ **B** で算出

	1泊日当たり の旅行支出	1泊当たり の買い物代
韓国	29,932	7,510
台湾	32,638	10,760
香港	37,857	11,686
中国	37,007	14,177
タイ	35,128	11,790
シンガポール	35,969	11,090
マレーシア	30,469	9,240
英国	32,137	4,217
ドイツ	27,344	4,361
フランス	22,532	4,116
イタリア	26,266	3,701
スペイン	28,452	4,680
ロシア	28,518	6,620
米国	32,597	6,648
カナダ	26,272	4,493
オーストラリア	30,590	5,300

1泊当たりの買い物代と同旅行支出に占める割合 (アジア) ※順位は1泊当たりの買い物代	
第1位	中国：14,177円（38.3%）
第2位	タイ：11,790円（33.6%）
第3位	香港：11,686円（30.9%）
第4位	シンガポール：11,090円（30.8%）

1泊当たりの買い物代と同旅行支出に占める割合 (欧米豪) ※順位は1泊当たりの買い物代	
第1位	米国：6,648円（20.4%）
第2位	ロシア：6,620円（23.2%）
第3位	オーストラリア：5,300円（17.3%）
第4位	スペイン：4,680円（16.4%）

（観光庁資料よりイーストとくしま作成）



1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

(5) -3 国籍別旅行日数と1泊当たりの旅行支出、1泊当たりの**飲食代**の検証

1泊当たりの飲食代は、P3の **D** ÷ **B** で算出

	1泊当たり の旅行支出	1泊当たり の飲食代
韓国	29,932	8,114
台湾	32,638	6,990
香港	37,857	9,059
中国	37,007	7,676
タイ	35,128	7,598
シンガポール	35,969	7,216
マレーシア	30,469	6,475
英国	32,137	6,619
ドイツ	27,344	5,458
フランス	22,532	4,582
イタリア	26,266	6,366
スペイン	28,452	6,580
ロシア	28,518	5,823
米国	32,597	6,497
カナダ	26,272	5,825
オーストラリア	30,590	6,604

1泊当たりの**飲食代**と同旅行支出に占める割合
(アジア) ※順位は1泊当たりの飲食代

第1位 **香港**：9,059円 (23.9%)

第2位 **韓国**：8,114円 (**27.1%**)

第3位 中国：7,676円 (20.7%)

第4位 **タイ**：7,598円 (21.6%)

1泊当たりの**飲食代**と同旅行支出に占める割合
(欧米豪) ※順位は1泊当たりの飲食代

第1位 **オーストラリア**：6,604円 (21.6%)

第2位 スペイン：6,580円 (23.1%)

第3位 米国：6,497円 (19.9%)

第4位 イタリア：6,366円 (**24.2%**)

(観光庁資料よりイーストとくしま作成)

1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

（5）-4 国別旅行日数と1日当たりの旅行支出、1泊当たりのサービス費の検証

1泊当たりのサービス費は、P3の **E** ÷ **B** で算出

	1泊当たり の旅行支出	1泊当たり のサービス費
韓国	29,932	1,498
台湾	32,638	1,338
香港	37,857	1,209
中国	37,007	1,256
タイ	35,128	1,166
シンガポール	35,969	1,014
マレーシア	30,469	1,296
英国	32,137	1,319
ドイツ	27,344	1,156
フランス	22,532	893
イタリア	26,266	1,184
スペイン	28,452	1,043
ロシア	28,518	1,000
米国	32,597	1,458
カナダ	26,272	1,661
オーストラリア	30,590	2,818

1泊当たりのサービス費と同旅行支出に占める割合
（アジア） ※順位は1泊当たりの飲食代

第1位 韓国：1,498円（5.0%）

第2位 台湾：1,338円（4.1%）

第3位 マレーシア：1,296円（4.3%）

第4位 中国：1,256円（3.4%）

1泊当たりのサービス費と同旅行支出に占める割合
（欧米豪） ※順位は1泊当たりの飲食代

第1位 オーストラリア：2,818円（9.2%）

第2位 カナダ：1,661円（6.3%）

第3位 米国：1,458円（4.5%）

第4位 英国：1,319円（4.1%）

（観光庁資料よりイーストとくしま作成）

1.2025年（1月～12月）の「訪日外国人観光客数」と「旅行消費額」

（5）-5 観光庁国別データ（2025年）にみる韓国からの訪日観光客の特徴

一例：韓国^{*}の観光庁2025年の訪日データから見える特徴

訪日旅行人数第1位 9,459,600人 対前年7.28%増

平均旅行日数：3.4日（3泊4日又は4泊5日の旅行）B

※一人当たりの旅行支出 101,770円（一人/円）A

下記は、内訳（一人当たりの費目別旅行支出）

宿泊費：35,083円

飲食代：27,588円（飲食費の割合 27.1%※）

交通費：8,457円

娯楽などサービス費：5,093円

買い物代：25,533円（買い物代の割合 25.1%）

※ 買い物の内容：①菓子類、②食料品、③酒類

更に、1泊当たりの金額（A÷Bの金額）はいくら？

1泊当たりの旅行支出 29,932円、同サービス費1,498円

1泊当たりの宿泊費 10,319円、同買い物代7,510円

年齢層は、20代最多（男21.3% 助成18.4%）

国内旅行感覚の2泊3日、3泊4日

短期周遊型（狭いエリアの短期周遊）

旅行費用はリーズナブルが基本

旅行の日常化。リピート率高い。

SNSによる情報収集が主流。

※一人当たりの旅行支出に占める飲食費の割合→高

若い世代はスポーツ体験に関心

中高年層はゴルフ、ハイキングに関心

グルメ、酒、買物中心。体験型消費も増

阿波おどり会館、大塚国際美術館人気

（観光庁資料よりイーストとくしま作成）



2.-2025年度 徳島県の延べ宿泊者数と訪日の国別割合について

2.-2 2025年の観光庁宿泊統計調査（徳島県）

(1) 観光庁宿泊統計調査 <2025年・1～12月（速報値） 2026/2/27日 観光庁>



延べ宿泊者数（全体） 6億5348万人泊

前年比－4.8%

延べ宿泊者数（日本人）4億7,561万人泊

前年比-3.8%

延べ宿泊者数（外国人）1億7,787万人泊

前年比+8.2%

（観光庁資料よりイーストとくしま作成）



2.-2 2025年の観光庁宿泊統計調査（徳島県）

(2) 都道府県別の延べ宿泊者数（全体：日本人＋外国人）

① 都道府県別の延べ宿泊者数（全体）

東京都	106,687,770人泊
大阪府	57,600,530人泊
京都府	33,968,650人泊
徳島県	2,648,640人泊
香川県	4,852,440人泊
愛媛県	4,341,480人泊
高知県	2,754,880人泊
~~~~~	
鳥取県	2,489,690人泊
佐賀県	2,356,240人泊



(単位：人泊)		
施設所在地	延べ宿泊者数	前年比
千葉県	28,053,980	-0.8%
東京都	106,687,770	-3.3%
神奈川県	27,212,050	+4.3%
三重県	9,328,680	+11.5%
滋賀県	4,718,070	-3.7%
京都府	33,968,650	-0.7%
大阪府	57,600,530	+0.3%
兵庫県	16,327,450	-1.1%
奈良県	3,164,290	+11.6%
和歌山県	4,958,220	-1.1%
鳥取県	2,489,690	-4.2%
島根県	3,344,990	-2.9%
岡山県	5,773,900	-0.2%
広島県	11,705,950	-3.0%
山口県	3,673,760	-3.0%
徳島県	2,648,640	+4.4%
香川県	4,852,440	+2.2%
愛媛県	4,341,480	-0.7%
高知県	2,754,880	-5.7%
福岡県	24,175,890	+0.9%
佐賀県	2,356,240	+0.5%

（観光庁資料よりイーストとくしま作成）



2.-2 2025年の観光庁宿泊統計調査（徳島県）

(3) 都道府県別の延べ宿泊者数（外国人）

① 都道府県別の外国人の延べ宿泊者数

東京都	59,591,270人泊
大阪府	24,203,390人泊
京都府	18,747,780人泊
徳島県	230,300人泊
香川県	1,119,220人泊
愛媛県	580,100人泊
高知県	136,510人泊
~~~~~	
鳥取県	198,930人泊
佐賀県	254,330人泊

徳島県は、対前年
32.6%UPで四国内
での上昇率は最大

(単位:人泊)		
施設所在地	延べ宿泊者数	前年比
千葉県	4,440,650	+0.7%
東京都	59,591,270	+4.9%
神奈川県	5,053,800	+14.3%
三重県	372,080	+54.3%
滋賀県	306,640	-9.0%
京都府	18,747,780	+10.7%
大阪府	24,203,390	-4.7%
兵庫県	1,947,120	+29.3%
奈良県	501,920	+25.5%
和歌山県	896,340	+13.8%
鳥取県	198,930	+68.0%
島根県	112,110	+33.9%
岡山県	676,730	+31.7%
広島県	2,120,570	+8.3%
山口県	161,890	+29.0%
徳島県	230,300	+32.6%
香川県	1,119,220	+23.4%
愛媛県	580,100	+28.3%
高知県	136,510	+3.6%
福岡県	7,909,710	+7.1%
佐賀県	254,330	+10.9%

(観光庁資料よりイーストとくしま作成)



2.-2 2025年の観光庁宿泊統計調査（徳島県）

(4) 徳島県の延べ宿泊者数（全体、日本人、外国人と個々の前年度比）

（観光庁宿泊旅行統計調査2026/2/27よりイーストとくしま作成）

1. 都道府県別 **全体** 延べ宿泊者数（2025年）（前年比）

（単位：人泊）

徳島県 2,648,640人泊
前年比 4.4% 増加

施設所在地	延べ宿泊者数	前年比
徳島県	2,648,640	+4.4%
香川県	4,852,440	+2.2%
愛媛県	4,341,480	-0.7%
高知県	2,754,880	-5.7%

2. 都道府県別 **日本人** 延べ宿泊者数（2025年）（前年比）

（単位：人泊）

徳島県 2,418,340人泊
前年比 2.3% 増加

施設所在地	延べ宿泊者数	前年比
徳島県	2,418,340	+2.3%
香川県	3,733,220	-2.8%
愛媛県	3,761,380	-4.1%
高知県	2,618,370	-6.2%

3. 都道府県別 **外国人** 延べ宿泊者数（2025年）（前年比）

（単位：人泊）

徳島県 230,300人泊
前年比 32.6% 増加

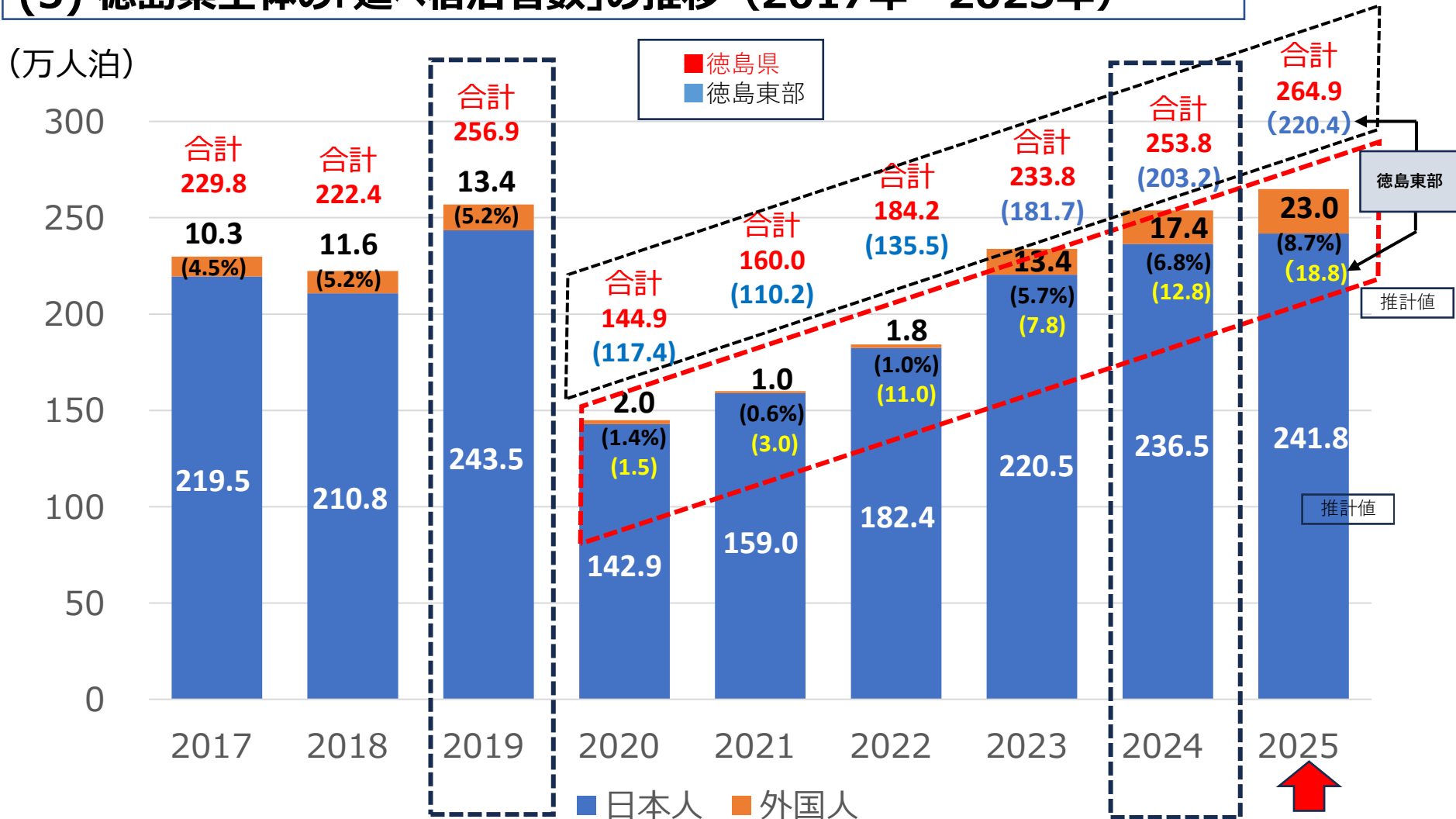
施設所在地	延べ宿泊者数	前年比
徳島県	230,300	+32.6%
香川県	1,119,220	+23.4%
愛媛県	580,100	+28.3%
高知県	136,510	+3.6%



2.-2 2025年の観光庁宿泊統計調査（徳島県）

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

(5) 徳島県全体の「延べ宿泊者数」の推移（2017年～2025年）

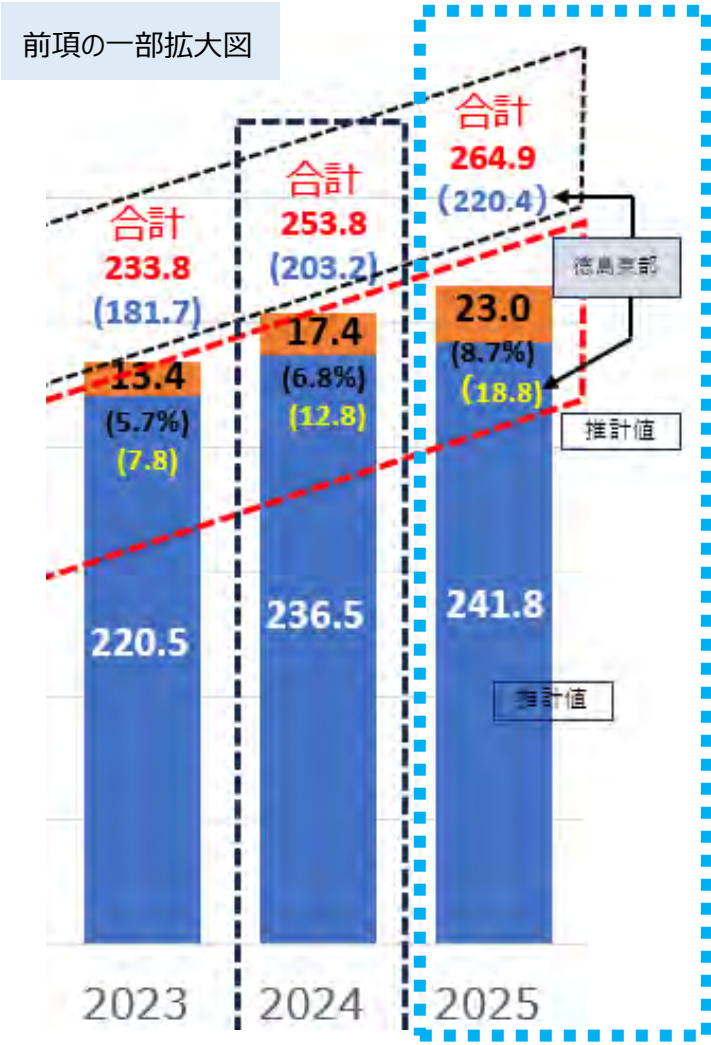


観光庁の宿泊旅行統計調査をもとにイーストとくしまDMO作成



2025年の徳島県の延べ宿泊者数の推移及び徳島東部の推移

(6) 2025年の徳島東部の「延べ宿泊者数」の現状



外国人観光客の「延べ宿泊者数」

	2023	2024	2025
徳島県	134,000	174,000	230,000
徳島東部	78,000	128,000	188,000
東部の県に対する割合	58.2%	73.6%	81.7%

1. 2025年1～6月の半年間の訪日外国人観光客の「延べ宿泊者数」の累計:

- (1) 県全体：23.0/前年17.4 (対前年132.1%)
 - (2) 徳島東部：18.8/前年12.8 (前年の146.9%)
- (※単位は万人泊)

→ 東部エリアでの外国人観光客の宿泊者数が拡大

2. 日本人、外国人の合計:

- (1) 県全体：264.9/前年253.8 (前年の104.4%)
- (2) 徳島東部：220.4/前年203.2 (前年の108.5%)

3. 因みに日本人観光客の「延べ宿泊者数」:

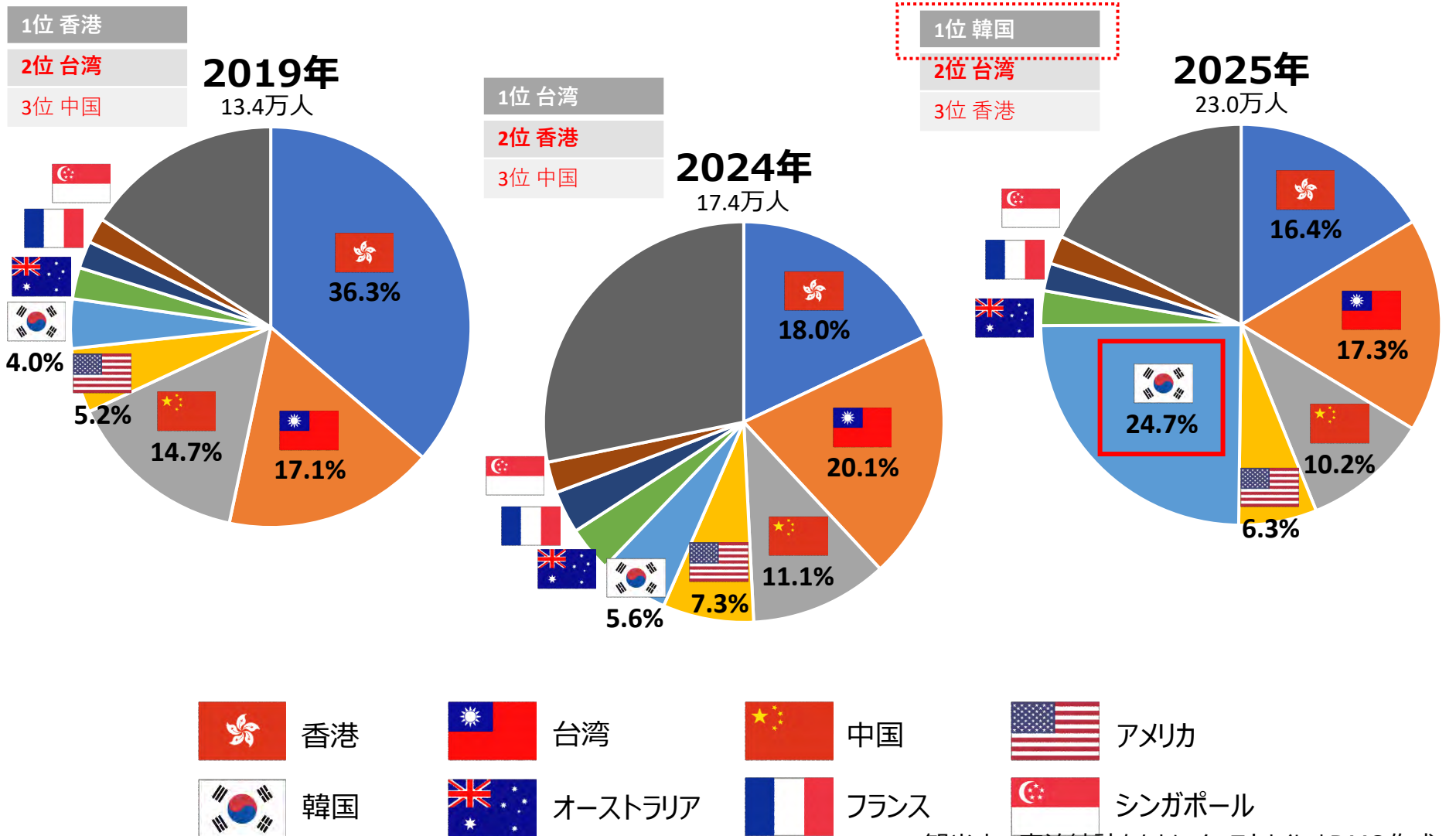
- (1) 県全体：241.8/前年236.5 (前年の102.2%)
- (2) 徳島東部：201.6/前年190.4 (前年の105.9%)



2025年の徳島県における外国人宿泊者の国籍別割合

(7) 外国人宿泊者の国籍別割合の変遷

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」
(※従業員数10人以上の施設)



観光庁の宿泊統計をもとにイーストとくしまDMO作成



3.-2026年度（令和8年度）イーストとくしま観光推進機構の事業



3.-1 観光庁宿泊統計調査（2025年）

(1) 徳島県の2025年の「延べ宿泊者数」の現状と課題

① 都道府県別 全体 延べ宿泊者数（2025年）（前年比からの状況） （単位：人泊）

	徳島県の延べ宿泊者数	2024年比	四国4県との比較
徳島県全体	2,648,640人泊	4.4% 増加	徳島県、香川県がプラス
（内訳 日本人）	2,418,340人泊	2.3% 増加	※徳島県のみがプラス
（内訳 外国人）	230,300人泊	32.6% 増加	※徳島県の伸び率が最大

備考：日本人のべ宿泊者数は、日本全体で前年比、-3.8%と減少する中、徳島県は増加している。

② 2025年の「延べ宿泊者数」における前年比の結果から見える課題

	四国来訪する観光客の動向（日本人観光客）と宿泊稼働率
1	四国全体の日本人観光客の「延べ宿泊者数」の伸び悩み（徳島県は四国内で4位）
2	徳島県の2025年（1～12月）稼働率（全体）は52.5%（前年比+3.9%）で上昇はしているが、年間では、受容れが可能。4県比較（香川59.6%、愛媛56.9%、高知48.3%）
備考	* 客室稼働率（全国）平均は61.8%（2024年は59.6%で+2.2%UP）徳島県は全国34位、香川県同14位、愛媛県20位、高知県41位となっている

（観光庁宿泊旅行統計調査2026/2/27）

3.-2 観光庁宿泊統計調査（2025年）

（2）徳島東部の2025年の「受入環境の現状と課題」と「今後の事業の方向性」

■【徳島観光の課題】

- ① 延べ宿泊者数は拡大傾向に。（ただし日本人の延べ宿泊者数は、伸び悩み）
- ② 観光客増加の背景による観光地間の移動手段（利便性）の脆弱性（直接行きにくい）
- ③ 外国人向け情報発信（SNSでの海外発信）の限定的な伝達度（まだまだ知られていない）
- ④ 多言語受入環境の未整備（外国語での説明表記が増えつつある）

■【2026年度 重点ポイント】

- ① 移動手段の利便性向上（滞在時の満足度の向上）
- ② 多言語情報発信の拡大（SNSによる観光情報の発信の拡大）
- ③ デジタルツールの整備による観光地での案内強化（受入環境整備の拡大）

■【2026年度 主要な実施事業】

- ① **移動手段の利便性の向上とインバウンドプロモーション**
 - 1) シェアサイクルシステムの整備と実証
 - 2) 徳島県との連携事業（インバウンドプロモーション、受容環境整備など）の実施
- ② **SNS情報発信の拡大と高付加価値コンテンツの造成**
 - 1) 海外向けSNS（Instagram, Facebook, X）の発信拡大
 - 2) 多言語デジタル音声ガイド（機能）の整備拡大

3. -3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

(3)-1 2026年度に実施する重点事業（事業骨子）：交付金事業として申請済

(1) サイクル&データ・モビリティ事業

2027年度に予定される大鳴門橋自転車道の開通を契機に、インバウンド観光客を主対象とした**広域シェアサイクル事業を段階的に展開**。主要観光地を結ぶ観光モビリティネットワークを整備するとともに、DMPを活用して観光客の移動・回遊データを分析し、観光動線の最適化や2次・3次交通課題の解消、観光戦略の高度化を図る。2026年度から3年間で徳島東部圏域に段階的に実証・展開し、持続可能な運用を目指す。

(2) 官・民一体のインバウンド受入環境整備の拡大

外国人観光客の増加に対応し、観光情報の多言語化や**スマートフォン対応の音声ガイド**、デジタルマップ等を導入し、**快適に周遊できる受入環境を整備**。併せて、観光事業者による多言語表記、無料Wi-Fi、キャッシュレス決済、食の多様性への対応などを助成し、官民一体で推進する。

(3) インバウンドDXプロモーションの展開

国際定期便の就航を契機に、SNSや動画メディアを活用した**DX型プロモーションを実施**。外国人インフルエンサーによる体験発信や、観光モビリティ、自然・文化・食の魅力を多言語で発信し、徳島東部の認知度向上と個人旅行者の誘客、及び、域内消費の拡大を図る。

(4) 地域の多様な主体の参画促進

インバウンド誘客を契機に、観光事業者、自治体、住民、大学等が参画する**地域一体の取組を推進**。研修や意見交換、DMPデータやプロモーション成果の共有を通じて共通理解を深め、観光を基軸とした広域的な地域経営体制を構築し、持続可能な観光地域づくりを目指す。

3.-3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

(3)-2 2026年度に実施する重点事業（事業骨子）：観光庁事業として申請済

(5) 旅行会社向けプロモーション

（旅行会社各社への認知度向上と商品化へのプロモーションを展開する。）

- ①オール徳島観光商談会、四国観光商談会、ツーリズムEXPO、VJTMなど、県外開催の旅行商談会への参加。
- ②海外（韓国、台湾、香港など）開催の旅行商談会への参加。（予算内で実施を検討）
- ③その他、民間事業社主催の旅行商談会への参加。

(6) プロモーションツールの制作

①ガイドブックの制作

徳島東部圏域の自然、文化、歴史、食など魅力的なコンテンツに加え、隣接する香川県東部、及び、兵庫県淡路島（南部エリア）のコンテンツ掲載を具体化する。

※シェアサイクル情報、2次、3次交通情報の掲載も想定。

※宿泊施設や観光拠点への効果的な配布を実施。

②多言語デジタルパンフレットのデータ基盤も準備。

(7) 着地型コンテンツ造成及びツアー造成支援

①徳島東部エリアのコンテンツの造成の継続

事業者へのヒアリングの上、プログラム化、付加価値化を図り、顧客満足度を高めていく。

②コンテンツ及びツアーの造成支援に重点

3.-3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

(4) 2026年度実施事業①-1：サイクル&データモビリティ事業

(1) 課題…「行きたい場所へ行きにくい」、「地域内を回りにくい」といった課題

空港・JR徳島駅等の主要拠点から観光地への「最終移動」や、観光地間を結ぶ「回遊移動（3次交通）」の利便性が十分でなく、「行きたい場所へ行きにくい」、「地域内を回りにくい」といった課題が顕在化している。これにより、滞在時間の延伸や訪問件数の拡大、観光消費額向上を阻害する要因となっている。

(2) DMOがシェアサイクルを検討する目的として

- ①観光地の交通課題解決
- ②滞在時間延伸・観光消費額の拡大
- ③回遊性強化（観光地間のつながり創出）
- ④観光DMPへのデータの供給基盤として活用
- ⑤景観形成・街のブランド向上
- ⑥住民ニーズとの二重効果で持続可能な観光に寄与



画像はイメージです

(3) 主要ターゲット：訪日外国人観光客（日本人含む）

- ①お客様も満足度の向上による地域内回遊の促進
- ② 1）主要発着地（JR駅、空港、港、観光地）と観光地間での活用、
2）移動手段による活用（乗り捨て可の設定検討）
- ③サイクリングをそれ自体観光コンテンツとして位置付け

→DMOが取り組む理由：「観光誘客×地域経済×街づくり」の取り組みをめざす。

3.-3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

(4) 2026年度実施事業①-2：サイクル&データモビリティ事業

シェアサイクル事業の受入側の体制構築（3年間の事業として）

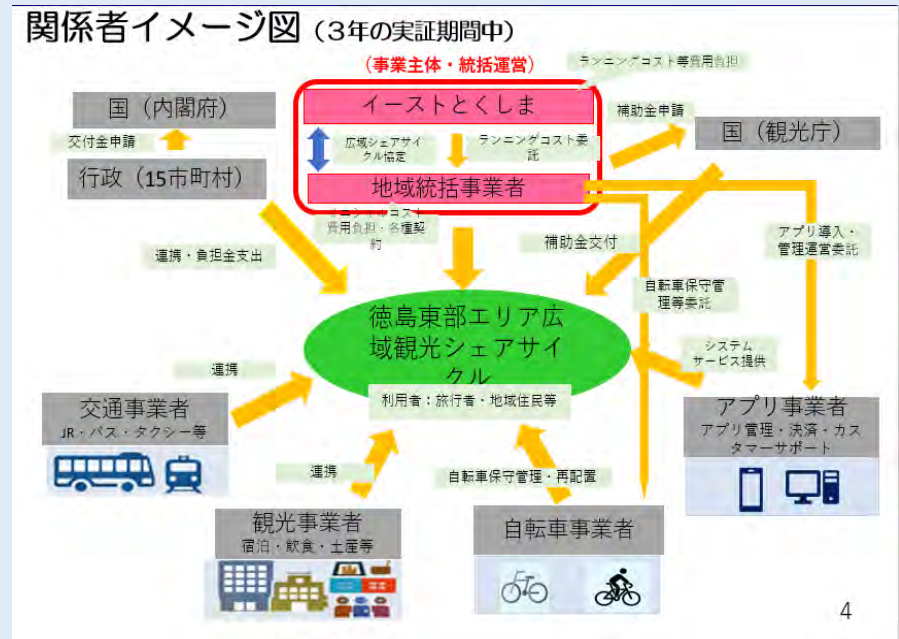
(1) 地元受入体制…シェアサイクル事業では、自転車のプラットフォームを提供する会社の選定以外に地元側のシェアサイクルの運用を維持のため、自転車の保守・点検、充電確認、再配置などの各事業者、および各社を統括する運営事業者と弊機構の共同運営として推進。

(2) 地元受入体制の構築

- ①行政（15市町村）
- ②受入統括事業者
- ③アプリ事業者（プラットフォーム）
- ④自転車事業者
- ⑤再配置事業者（自転車運送）
- ⑥交通事業者
- ⑦観光事業者（観光案内所含む）
- ⑧地元協力事業者

(3) 国補助金の獲得による予算創出

- ①内閣府（地域未来交付金）
- ②観光庁（R8公募事業）
- ③徳島県



画像はイメージです



3.-3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

（4）2026年度に実施する事業②：二次交通整備促進事業（予定）

徳島県の二次交通整備促進事業への申請（受入環境整備事業）

（1）背景

徳島阿波おどり空港では、2024/12月から韓国からの国際定期便の**就航で、更なる利用者数増加**が見込まれる。また、2028/3月の完成を目標に大鳴門橋自転車道の整備が徳島県、兵庫県、鳴門市、南あわじ市で進展、徳島エリアへの**来訪者数の増加**が見込まれる。

（2）課題

国際定期便の就航により空港における二次交通対策が喫緊の課題となり、**空港から鳴門方面へのアクセスが脆弱という声**が多数あがっている。

（徳島阿波おどり空港将来ビジョン検討 会議など）

（3）課題に対する事業

鳴門方面へのアクセス改善により国内外からの更なる観光客の増加を図るとともに淡路島との広域連携によるイン・アウト双方での新規需要の創出に取り組む。

（4）バス運行計画（現在の計画案）（詳細は後日）

運行事業者：徳島バス(株)、淡路交通(株)、みなと観光バス(株)

運行区間：徳島空港＝途中停車箇所＝大塚国際美術館

運行便数：検討中

運行期間：令和8年夏頃～令和9年3月（検討中）



現時点の路線のイメージ

徳島東部へのインバウンドを含む域内回遊の促進の為の事業として、空港から出発する観光客の利便性の拡大と消費額の拡大を狙う事業としてプロモーションを中心に取り組む。

※詳細は4月以降となります。

3.-3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

(4) 2026年度実施事業③：多言語音声ガイドシステムの整備

多言語音声ガイドシステムの整備

来訪者が自身のスマホやタブレットを使用してQRコードを読み取ると、訪れた観光施設(9施設)のデジタルパンフレットが表示され、文字と共に音声での案内が流れるガイド機能を備えた多言語デジタルガイドを制作

① QRコードからの取込



② 観光施設にポップを設置



③ 施設情報の提供



■ 対応言語

日本語・英語・中国語（繁体字）・韓国語ほか
計10か国言語に対応

■ 対象施設

公共施設を中心に本年度実施の4市町を除く、徳島県東部
11市町村に設置を進めていく（3年間での実施を計画）
1 鳴門市、2 松茂町、3 佐那河内村、4 小松島市、5 勝浦町、6
神山町、7 石井町、8 吉野川市、9 上板町 10 板野町、11 北島

3.-3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

(4) 2026年度実施事業④：インバウンドDXを活用したプロモーション

国際定期便就航で増加する外国人観光客向けSNSやメディアを活用したDX型プロモーションを実施。外国人インフルエンサーによる体験発信や、観光モビリティ、自然・文化・食の魅力を多言語で発信し、徳島東部の認知度向上と個人旅行者の誘客、域内消費の拡大を図る。

一例

■インフルエンサーによる体験発信

外国人インフルエンサー招へいによる徳島東部の観光コンテンツをInstagramで発信、現地のお客様向けに発信し徳島東部への観光意欲を高める。

- 目的 DX（SNS発信による情報発信）活用による徳島東部の認知度向上と個人旅行者の誘客、域内消費の拡大
- 手段 SNS（Instagram、Facebookなど）
- 言語 対象国言語による発信
- 対象者 日本在住又は、現地のインフルエンサー
- 日程 ファムトリップ形式予定（1泊2日など）
- 対象エリア 徳島東部圏域



3.-3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

(4) 2026年度実施事業⑤-1：地域の多様な主体の参画促進

インバウンド誘客を契機に、観光事業者、自治体、住民、大学等が参画する地域一体の取組を推進。研修や意見交換やプロモーション成果の共有を目的に共通理解を深め、観光を基軸とした広域的な地域経営体制を構築し、持続可能な観光地域づくりを目指す。

- 宿泊、飲食事業者との意見交換会の開催
（2025年に続き、年2回の開催を継続）
- デジタル人材育成講座の実施（映像作家と体験するInstagramワークショップなどの開催）
＊徳島の魅力発信として徳島の魅力を考える機会を提供。
- 徳島県東部圏域観光地域づくりにおける住民意識調査業務
- 観光コーディネーター養成講座
（2026年度徳島大学・徳島県との連携事業）
- 徳島県内の[遍路]に関する意見交換会
（徳島経済研究所との共催、札所寺院、徳島県、阿波銀行、エアトラベル徳島、JR四国、鳴門観光、四国ツーリズム創造機構、他）
- 2026年度 徳島県のDMP事業に連携





3.-3 イーストとくしま観光推進機構の事業骨子（事業項目）

(4) 2026年度実施事業⑤-2：地域の多様な主体の参画促進

観光コーディネーター養成講座

観光コーディネーター養成講座

観光による地域創生を目的とし、日本の観光資源のトップランナーや地域で活躍するプレイヤーを講師に迎え、観光振興の観光地づくりの考え方や、先進地域の成功事例などを通して新たな観光コンテンツやサービス等を造成する「観光」を担う人材の養成・発展を図る講座です。

11/17(月)	18:30~20:00	「観光地のロードデザイン」	平塚 幸平 氏
12/1(月)	18:30~20:00	「観光地地産品のあり方」	山田 浩一 氏
12/8(日)	18:30~20:00	「ファンタジーと生きた人を魅了した観光地」	山田 浩一 氏
12/15(月)	18:30~20:00	「世界が注目する日本のアドベンチャーツーリズム」	山下 潤一 氏
12/22(月)	18:30~20:00	「宿泊事業と観光情報発信」	山田 浩一 氏
1/13(火)	18:30~20:00	「世界の人々が“旅したくなる地域”をつくるために」	山田 浩一 氏
1/19(月)	18:30~20:00	「データ活用による地域観光のイノベーション」	山田 浩一 氏

お申込み
イーストとくしまDMOのウェブサイト又はDMOのWebサイト又はDMOのWebサイトからお申し込みください。
お申し込みは随時受付です。
お申し込みは随時受付です。
お申し込みは随時受付です。

お問合せ
一般社団法人イーストとくしま観光推進機構
TEL: 088-678-2811 FAX: 088-678-2877
E-mail: info@east-tokushima.jp

徳島大学・徳島県と連携
観光まちづくり人材育成
観光の各分野からトップランナーを招聘。徳島県及び、徳島県観光協会と連携。

15市町村住民満足度調査

▶ 調査目的

- 観光推進のステークホルダーである『住民』における観光推進の浸透度や恩恵の知覚など、DMOの活動やビジョンなどのインパクトの現状を理解する
- 住んでよしの地域づくりを行う上での戦略策定の基礎材料とする

▶ 調査対象

- 「徳島県東部圏域」エリアに在住者 計2,000名
- 住民基本台帳より無作為抽出。
- 徳島県東部圏域エリア15市町村の人口構成比に合わせ配布を行う。

▶ 調査方法

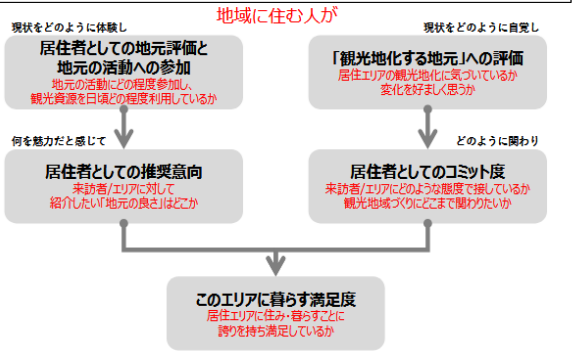
- 郵送によるアンケート調査
- 一部インターネット調査
- パソコンやスマートフォンから回答できる画面を用意し、郵送アンケートの調査票にURL・QRコードを記載。

▶ 調査期間

- 調査票発送：2024年11月末～12月2週目
- 個人情報保護の観点より、アンケート・返信用封筒を封入し切手を貼ったものを各市町に返送し、各市町で宛名を貼り投函いただいた
- 回答締切：2024年1月24日（消印有効）
- 24日以降1月の回収分は有効回答数に含む

▶ 回収数

- 567件（回収率 28.4%）
- うち、インターネット回答 188件



地元への愛着や誇りへの関心度を図る重要な指標として、域内に暮らす住民の皆様へ観光に関する意識調査を実施。

観光事業者との意見交換会

開催目的：観光地域づくりに向けた意見交換会。地域の「稼ぐ力」を引き出す観光地域づくりををめぐす地元事業者との意見交換会

* 参加者：宿泊、飲食、イベント事業者等
* 開催：年2回予定（夏、冬の想定）
* 人数：15～30名/回
* 基調講演：テーマごとに講師招聘
* オブザーバー参加（これまで）
徳島県、四国ツーリズム創造機構、徳島商工会議所、徳島経済研究所、徳島県観光協会、徳島県信用保証協会、JR四国、ツーリズム徳島

地元の宿泊、飲食、観光事業者との意見交換会を実施。地域の課題や観光の最新情報の共有などをテーマに話し合う場を創出。



3.-3 令和8年度（2026年度）観光庁の補助事業

(4) 2026年度実施事業⑥ 2025年度 観光庁補助事業への申請（準備中）

オーバーツーリズムの未然防止・抑制をはじめとする観光地の受入環境整備の促進事業

オーバーツーリズムの未然防止・抑制をはじめとする観光地の受入環境整備の促進 令和8年度予算額 10,000百万円 観光庁

事業目的・背景・課題

- 一部の地域・時間帯における観光客の過度な集中やマナー違反問題など、我が国における観光課題が顕在化している状況。
- インバウンドの更なる受入れに対する国民の不安を払拭し、観光を我が国における「戦略産業」として持続的に発展させていくためには、局所的・短期的な対応が中心となっていたこれまでの対策に加えて、地域の方々の理解の下、中長期的な視点からより実効性のある面的な対策を一層促進していく必要がある。

事業内容

- ①補助事業
地域における観光地帯のとりまとめ・旗振り役である地方公共団体、観光地づくり法人（DMO）が中心となり、各地域が現在直面している課題／今後抱える課題に地域一体で行う様々な取組（政策的・総合的に支援する。また、民間事業者をはじめ、個別の受入環境整備に係る取組についても、きめ細やかな支援を行う。
※1 ハード整備（例：調査・実証に係る取組を含む）
- 特に、ソフト的・対症療法的な対策のみならず、中長期的な視点から安定的・持続的に支援できるよう、複数年にわたる取組についても支援することとする。また、検討段階から観光庁・地方運輸局が伴走支援を行い、地域の方々の理解の下、より実効性のある対応の加速化を図っていく。
- ②調査事業
●我が国における観光課題の情報を収集し、生じている地域・エリアに提供することで、スピード感をもちた対策の作成を支援するほか、多様な媒体を通じたモニター啓発、手ぶら観光サービスの普及・浸透に向けた調査等を実施する。

事業イメージ

事業スキーム

- 事業形態：①間接補助事業（補助率 2/3（補助上限額：2億円）、1/2（補助上限額：0.5億円）、②調査事業等
- 補助対象：①国→民間事業者→地方公共団体、登録DMO、民間事業者等 ②民間事業者等・事業期間：令和8年度～

担当課室：観光庁 参事官（外客受入）

- *シェアサイクル事業を検討中
- *地域事業者との連携事業

観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業

観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業 令和8年度予算額 10,000百万円 観光庁

事業目的・背景・課題

- インバウンド需要は増加傾向にあるが、訪日外国人旅行者は都市部をはじめとする一部地域に偏在している状況が続き、オーバーツーリズムが顕在化。訪日外国人旅行者は、他外国滞在時と比べて娯楽サービス費支出が低く、旅行者の観光需要への対応が不十分となっている。
- 観光による経済効果を全国津々浦々に波及させ、観光消費を効果的に拡大させるとともに、持続的な地方誘客によりオーバーツーリズムの解消につながるよう、地域において観光コンテンツの供給を促進するとともに、観光の付加価値を高めるカド人材の質的向上が必要である。

事業内容

- 需要分散に資する観光コンテンツの供給に向けた取組を支援する。具体的には、
 - 多様な地域資源を活用した観光コンテンツの作成や情報発信、販路開拓等を総合的に支援
 - インバウンドのニーズを踏まえ、品質を高めた高単価な観光コンテンツや、地域産業への波及効果が期待できるガストロノミー分野の観光コンテンツ等を重点的に支援
 - その際、継続的な販売につながるよう、デジタル上での効果的な情報発信等を促進
- 観光コンテンツとガイドの一体的な質的向上に向け、コンテンツに応じたスキル・研修設計、ガイドの評価制度と報酬体系の構築のあり方、ガイドの可視化手法等について調査する。

【支援対象事業】

- ①新創出型 地域資源を活用した観光コンテンツの作成、効果的な情報発信や販路開拓等を支援
- ②品質向上型 より高単価なインバウンド向けのオプションツアー等の作成に向け品質向上等の取組を支援
- ③分野特化型（ガストロノミー） 地域の食資源を活用し、幅広い連携により、地域の食文化を体感できる質の高い観光コンテンツの作成、販路開拓等を支援

事業イメージ

事業スキーム

- 事業形態：調査事業等、間接補助事業
- ①新創出型：400万円まで定額、400万円を超える部分は事業費2,100万円まで補助1/2（最低事業費 600万円）
- ②品質向上型：800万円まで定額、800万円を超える部分は事業費4,200万円まで補助1/2（最低事業費1,200万円）
- ③分野特化型（ガストロノミー）：400万円まで定額、400万円を超える部分は事業費2,500万円まで補助1/2（最低事業費 600万円）
- 補助対象：地方公共団体、DMO、民間事業者等

担当課室：観光庁 観光資源課

- *ナイトタイム活性化事業
- *地域事業者との連携事業

以上となります。 ご清聴ありがとうございました。